

令和4年度第1回倉敷市環境審議会生物多様性部会 議事録（要旨）

1 日時

令和4年7月14日 14時00分～15時50分

2 場所

倉敷市役所本庁舎5階 502会議室

3 出席者

【委員】11名

小林委員、片岡委員、内田委員、奥島委員、阪田委員、洲脇委員、秀田委員、  
福田委員、山田委員、山口委員（web参加）、山野委員（中途web参加）

【事務局】6名

環境リサイクル局 環境政策部 環境政策課 森宗課長、瀧本課長代理  
環境管理係 川口係長、原田副主任  
自然保護係 窪津主幹、植田技師

4 欠席者

【委員】2名 青江委員、中田委員

5 傍聴者 0名

6 報道関係 0社

7 次第

- (1) 開会・あいさつ
- (2) 倉敷市環境審議会生物多様性部会について
- (3) 会長・副会長選出
- (4) 議事 倉敷市生物多様性地域戦略の進捗状況等について
- (5) その他
- (6) 閉会

8 添付資料

- 資料1 【資料1-1】倉敷市環境審議会生物多様性部会について  
資料2 【資料1-2】倉敷市環境審議会生物多様性部会名簿  
資料3 【資料2-1】「倉敷市生物多様性地域戦略」の進捗状況等について  
資料4 【資料2-2】倉敷市生物多様性地域戦略 短期的目標（2030年度）評価シート  
資料5 【資料2-3】倉敷市生物多様性地域戦略 実施事業計画表

9 議事要旨

	<p>※部会長・副部会長は、小林委員が部会長、片岡委員が副部会長となること が委員の互選により決定した。</p>
事務局	<p>(議事 倉敷市生物多様性地域戦略の進捗状況等について 説明)</p>
部会長	<p>先程の説明について、委員の皆様からご意見やご質問はありますか。</p>
委員	<p>基本目標3-6「地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている企業の割合」について、昨年、ISOの取り組みを行っている企業が反映されていないことを意見として挙げたが、それが反映された形になっているということか。</p>
事務局	<p>ISOについては本アンケートでは別の項目となっており、今回の数値にISOの取り組みは含んでいないが、設問を工夫し、自然保護・環境保全に配慮した取り組みについていくつか選択肢を挙げて、選択式で回答をお願いしたところ、非常に多くの報告をいただき、75.2%となっている。</p>
委員	<p>市民参加型生き物調査について、昨年はセミが対象であったが、どのような報告がありどのような成果物となったか教えてほしい。</p>
事務局	<p>報告については、鳴き声等でセミの種類を判別してもらい、どこでどの種のセミを見つけたかを報告してもらっている。成果物については、ホームページ上に、市町村ごとのセミの種類グラフや、セミを見つけた位置を地図上にプロットして公表している。流域全体で調査しているので、地域ごとに差があるデータが取れている。</p>
委員	<p>市民参加型生き物調査について、今年は外来種であるジャンボタニシを対象としているが、市民へどういった位置づけで調査してもらうように考えているか。</p>
事務局	<p>外来種ということで、チラシ等には数が増えて問題になっていることを記載しているが、外来種が増えることの問題について身近に考えるきっかけとなればと考えている。</p>
部会長	<p>生き物調査について、セミからジャンボタニシへ対象を変更したことに理由はあるか。</p>

事務局	本事業は、身近に観察できる種を5種選定し、これを5年サイクルで継続的に調査対象としていく方法で進めている。
部会長	この種の調査は、継続性が非常に大切であるため、定期的なサイクルで実施することは良いと思う。サイクルで調査していくことを強調したら市民にも伝わりやすく、より良いと思う。
委員	みずしま財団では、設立当初より、大きなミッションの1つとして海ごみの問題について取り組んでいる。地域戦略の中に陸域の水生生物の話は出てくるが、海域については、アマモ場再生については記載があるが、海域の生物多様性の記載があまりなく、漁獲情報等、情報があれば教えてもらいたい。
事務局	事業として紹介できるものがあるか、確認したい。
部会長	倉敷には高梁川の河口の干潟や高洲の干潟などの海域の財産が多くある。海域の生物多様性についてはここ10年くらいでようやく進めだしているように感じ、環境施策に落とし込むのは難しい部分もあるが、落とし込めれば素晴らしいと思う。
事務局	資料2-3の基本目標4の項目のところだが、海辺教室を開催し、水生生物の観察イベントを行ったりしている。農林水産課でも何かしらの取り組みをしていないか、確認したい。
部会長	みずしま財団で実施している調査結果の蓄積（経年のデータ）はどのようなものがあるか。
委員	以前はごく少数の漁師しか網にかかった陸域から流入したごみの処理をしていなかったが、海底ごみステーションを設置してもらい、極力処理してもらうような取り組みはした。今は陸域（河川や用水路）からの流入ごみが多いので、それらをどのように回収し、処理をするかのシステムを考えている。海岸のごみの状況の調査もしているが、生物多様性への影響の分析まではできていない。海ごみの量的な部分は近年である程度明らかにできるようにはなってきた。
委員	海ごみの流入については田舎の高齢の方が川等に捨ててしまっているものが多く感じる。昔はごみは川に捨てても分解されていたことが原因にあると感じ、悪気は必ずしもある訳でもない。そういった大人への教育も進めないと海ごみの量は減らないと思う。

委員	毎年海岸で観察会を行っているが、ごみの発生は①中高生②釣り人の順番で多いように感じる。そのため、観察会後に子どもたちへの啓発を兼ねてごみ拾いも併せて実施している。
委員	海底耕耘やアマモ場再生など、海域での生物多様性の対策もやり方は様々あると思うので、ぜひ検討いただけたらと思う。
事務局	海ごみに関しては全国的にも関心が高く、倉敷市も問題意識を持って取り組んでいる。高梁川流域も巻き込んだ事業として、ブルーオーシャン事業に取り組んでおり、みずしま財団さんに海ごみの調査を依頼するなどし、また流域の各市町でパネル展など普及啓発も進めている。また、海ごみの発生抑制の絵本を作成し、それをお子さんに読んでいただく中で、子育てする親世代や、孫を経由して祖母父世代への啓発など、取り組みを進めている。
部会長	基本目標2-4 自然環境に配慮した工法により整備された工事件数については、倉敷市では保護の取り組みを多く実施しているのに数値が悪く見えてしまっているように見えると前回指摘がなかったか。
事務局	前回指摘のとおり、自然環境に配慮した工法の工事割合については、配慮した工事を割合で示すと、低い数値で見えてしまうため、評価シートの2-Dに「総合評価に使用する項目」へ変更した。代わりに、新たに2-5として、保護移動が必要な案件に対する保護移動実施の割合の項目を追加し、適切な保護対策が実施されている旨が分かるように変更した。
委員	保護移動実施後の効果のモニタリングなどはできているのか。
事務局	予算の問題もあり、現状、保護移動後のモニタリング調査はできていないが、専門家の方とも話をし、希少野生生物の生息範囲の確認も含め、調査の実施を検討している状況である。
委員	基本目標2-7ヌートリアを含む鳥獣被害面積・被害額について、目標達成が非常に厳しそうだが、対策案等はあるか。
事務局	農林水産課に確認して、後日の回答とさせてほしい。
部会長	鳥獣被害の件については、説明の中でハクビシンとアナグマの被害が増えている旨の説明があったが、ハクビシンは確かに果樹等への被害があるが、アナグマについてはミミズ等を餌とするため、農作物への被害が大きくなると

	は思えない。再度確認をお願いできればと思う。
委員	資料2-1 18ページの基本目標4-③で、自然体験型の講座に327人が参加したとあるが、これは環境学習センター主催のイベントのみであるのか、それとも市内の他の団体のイベントも含んでいるか。以前、市が主催する以外の他の団体の活動も数に含めたらという意見もあったので、確認できたらと思う。
事務局	この人数は、環境学習センターで実施した事業のみの数字となっている。前回委員からネイチャーゲームの会の市内での活動実績も加えたらとの意見があったが、市全体で環境に様々な方に関心を持ってもらい、様々なイベントを通じて環境に関りを持ってもらいたいと考えており、引き続きお世話になればと思う。中間評価のタイミング等では、そのあたりの実績も参考として加えられたらと考えている。
委員	協力している団体の数値も、参考値で構わないのでどこかに入られると、公的な機関だけでなく市民自身が活動しているという質的な評価にも繋がると思う。
委員	基本目標1-3「市民団体等による自然環境調査、観察会の実施件数」の関連部署が、環境学習センター、自然史博物館他となっているが実績数値は環境学習センターと自然史博物館の数値のみの数値となっているか。他の団体や施設の数値は入っているか。 基本目標2-8「特定外来生物（ヒアリ、アカカミアリ、アルゼンチンアリ）の定着件数」に関連して、他の動物や植物等の特定外来生物について状況を把握するような取り組みはしているか。
事務局	基本目標1-3については、環境学習センターと自然史博物館に問い合わせた数値の合計となっている。市民団体等の数値が入っているのか、必要があれば訂正等含め、後日の回答とさせていただきたい。 特定外来生物についても、後日の回答とさせていただきたい。
部会長	倉敷市生物多様性地域戦略の進捗状況等の確認については、以上とするが、生物多様性に係ること1点質問だが、倉敷市で風力発電・太陽光発電で大規模な開発が進んでいる場所はあるか。
事務局	大規模な開発の情報は入ってきていない。

部会長	<p>真庭市で大規模な風力発電所の計画が出ているのだが、生物多様性の核となるような場所を選定しての計画となっている。行政では、近年、風力発電や太陽光発電を適切に推進するためゾーニングを始めている。そのあたりの情報収集を事務局にお願いできないかと思うがどうか。</p> <p>環境省の委員も来られているので伺いたい、環境省としてもゾーニングについての情報を持っているか。</p>
委員	<p>環境省でゾーニングを奨励しており、自治体向けのゾーニングマニュアルはある。アセスメントの対象となる施設であれば、環境省にも情報は入ってくる。</p>
事務局	<p>環境政策課の中に地球温暖化対策室も設置しており、カーボンニュートラルの関係でゼロカーボンシティの推進を行い様々な施策を行っている。電力関係の積極的な情報収集は難しいが、地球温暖化対策室に情報提供があれば、情報を出せるタイミングもあるかもしれない。ただ、現時点では情報は入ってきていない。</p>
委員	<p>倉敷市を始めとする沿岸部の独自の問題として、特に小規模な太陽光パネルを、沿岸部の湧水湿地（倉敷では例えば倉敷美しい森の湿地など）に、もともと木も生えておらず伐採の必要が無い・草ばかりなので造成もしやすいというメリットもあり、設置される事例がかなり増えてきている（例えば備前市や総社市）。湧水湿地は小規模だが瀬戸内沿岸の特徴的な自然であり、このまま湿地の減少が進むと倉敷地域、ひいては瀬戸内沿岸地域の生物多様性が大きく損なわれることを危惧している。1つ1つは小規模だが湧水湿地同士が近距離にあり、湿地同士が生き物によって繋がっているのが特徴である。そういった問題が今起こりつつあることを認識して、何かあれば対応できるように考えていただけたらと思う。</p>
部会長	<p>確か浜松市の例であるが、地方自治体により陸上のゾーニングを行い、公表した例もあり、湧水湿地も残していけるよう、ゾーニングまでいかなくとも倉敷市の残していきたい自然としての資料として公にする等、できればと思う。</p> <p>ゾーニング：法的規制・生態系等の環境面、地域理解等の社会面、施工環境等の事業性を総合的に評価して、環境保全を優先すべきエリア、発電導入が可能なエリア等に分けるもの（浜松市ホームページ）</p>
委員	<p>湿地は小規模でもあり、ピンポイントで公表するとまた別のリスクもある。やり方としては、例えば”この地域には湧水湿地群がある”程度の内容で具体</p>



事務局	<p>的なポイントを示さずに公表するのも一つの方法と思う。</p> <p>本件は議事に残し、検討していきたいと思う。</p>
委員	<p>全体的な話にはなるが、今回初めて本会に参加するにあたり、事前に地域戦略の冊子に目を通したところ、非常によくできた戦略であると感じた。地域に人材が揃っていることや、市民の意識も高いことからできた戦略であると感じる。特に、地域の生物多様性の現状について詳しく書かれており、また何より、将来像が具体的に書かれていることが素晴らしく思う（地域戦略 79 ページ）。あくまで例示に過ぎないのかもしれないが、市として目指していきたい姿がよくわかる。戦略自体を誰に読んでもらいたいかを考えると、それは市民や地域の事業者であり、行政側が示す将来像と同じものを頭の中に描いてもらえないと施策への協力はうまく進まない。その点で、将来像を具体的に示していることが、素晴らしい戦略である所以と感じる。欲を言えば、この具体的な将来像を実現するために、どういう施策が具体的に必要なのかが見えるようになると、より良いと思う。次期の計画改定の際は、具体的な将来像とその実現に必要な具体的な施策との関係が見える化できると、市民や事業者も何をしたらよいか分かり、具体的な行動に繋がっていくのではないと思う。また、事業者の役割として、地域の生物多様性に配慮することは勿論であるが、もう少しグローバルに考え、例えば生物多様性に配慮して生産された素材を選んで輸入するなど、事業者自らの事業活動のサプライチェーン全体で生物多様性に配慮していくところまで踏み込めれば、なお良いと思う。国内だけに目を向けていると気が付かない地球規模の危機を、事業者がグローバルな意識を持って消費者に伝えるようなことができれば、より地球全体の生物多様性の保全に繋がると思う。</p>
事務局	<p>本日の部会の中で、進捗状況等、お答えできなかった部分については、事務局の方から委員の皆様にご連絡させていただく。</p>
その他 連絡事項 (委員)	<p>※近年の海の生物の様子についてと、事前に採集し持参いただいた海ホタルについてお話しいただいた。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

議事録承認

部会長

小林秀司

